

【八頭町】

校務DX計画

「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト（学校向け）」自治体別達成状況〔速報値〕」（令和6年12月）を見ると、八頭町は全国平均、鳥取県平均をやや上回る結果となっている（八頭町内5校の平均：435.6点、全国平均391.1点（各県平均から算出）、鳥取県平均402.3点）。

この結果から八頭町内の各学校においても校務DXが進展しつつあることが分かるが、同調査の自治体別回答を見ると特に「教職員と保護者間の連絡のデジタル化」がなかなか進展していない状況が明らかになった。

この状況を基に今後より一層の校務DXを進展させていくため、町内各学校と情報共有や協議を行いながら下記項目を中心に重点的に取り組んでいくこととする。

1. 「時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項」

いずれの学校もクラウドツールを活用した受付体制が整っていない。

学校としては、「時間外に連絡をいただく保護者はおそらく早急な回答・対応を期待していると思われるが、そもそも時間外であるためその期待に応じ切れるかどうか分からないため。」と考えているところだが、保護者として実際にどう考えているのか確認しながら具体的な体制づくりを行っていく。

2. 「保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用いて受け付ける」

5校中2校で一部の資料を受け付けている状況となっている。

個人情報を含む提出物もあることから、学校・保護者双方が実施に慎重になっていると思われる。

個人情報保護に対する対応を明確にし、取り扱いに関して丁寧な説明を行いながら実施可能な資料から進めていくこととする。

3. 「保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行う」

いずれの学校も行えていない。

ICT支援員やネットワーク管理部署等と連携した、クラウド上で日程共有や施設予約等を行えるシステムの調査や導入に向けた検討、他校で使用しているフォーマットの共有など通じて各学校におけるクラウドサービスの積極的な活用を促していく。

4. 「業務におけるFAX使用・押印の見直し」

FAXでのやり取りや押印を必要とする相手先もまだあることから、先方に「ペーパーレス化の推進」と「教職員の柔軟な働き方の推進」という校務DXの目的を

理解していただきながら校務の効率化を進めていく。

5. 次世代の校務デジタル化に向けた環境整備

パブリッククラウド上で運用出来る次世代型校務支援システムの導入に向けて、鳥取県及び関係機関と情報収集や検討を行っていく。